

2)ナガレモンイワナの人工増殖の試み

八木和弘*・太田豊三

【目的】姉川のある支流に限って生息するイワナの一種で「県の保全すべき個体群」でもある、ナガレモンイワナの保存を目的に、野生魚を親として養成し、ナガレモンイワナの人工繁殖の試みが東草野中学校において、中学生の環境学習の一環として、取り組まれてきた。

(注)ナガレモンイワナとは、背中白い斑点が明瞭でなく、パーマークが全くなく、体側に虫食い模様がながれているイワナで突然変異種といわれている。発見地は、山形・滋賀・福島。

【経過】

ナガレモンイワナの人工孵化の記録（伊吹町立東草野中学校記録より抜粋）

年 月 日	飼 育 記 録
01. 9. 14	地元の方がナガレモンイワナ3尾を当中学校に持参。早速、水槽に移し飼育を開始。用水は山水使用。
9. 29	小魚・ミミズを食するようになり、元気回復。
12. 3	採卵を試みる（5粒）
12. 4	♀2尾(TL約10数cm)から282粒採卵、♂1尾の精子をかけ、受精。（後、ヨード剤で卵消毒実施）
12. 19	卵の多数、白色化確認。死卵として除去。
02. 1. 28	最初の1尾ふ化確認（採卵受精後55日目）
1.30～2.4	計13尾のふ化仔魚確認。
2. 25	数尾の仔魚の生存確認。
3. 11	（採卵受精したナガレモンイワナの親魚すべて斃死）
3. 15	稚魚6尾確認。餌付け開始。餌は人工飼料を中心に。



写真1：受精卵282粒（'01年12月4日）



←この時期の体側の模様は既に流れ紋を形成。

写真2：育っている稚魚（ふ化後4カ月齢）

*伊吹町立東草野中学校